



日本鋳物中子工業会  
 会長 小澤俊孝

### ごあいさつ

会員の皆様、賛助会員の皆様、ならびに諸関係者の皆様方に御挨拶を申し上げます。本年度の総会に於きまして会長に選出頂きまして、誠に恐縮致しております。

日本鋳物中子工業会は3年程の準備期間を経て平成6年4月に発足され25期目を迎える事となります。この間、歴代の会長をはじめ役員の皆様や事務局の御苦勞を想いますと身の引き締まる思いが致します。

昭和30年頃にシェルモールド法という鋳造造型方法が日本に導入され、昭和47年に特許が解放された後は、またたく間に全国に広がりました。そしてそのシェルモールド法の特性により中子業が誕生致し、私共も何かの御縁でこの世界に魅入られ、約50年近くになります。私は今年の干支の戌年生まれでございます、7月には72才を

迎える事になります。中子業界も私達の年代の創業会社が大半を占めておまして、いま世代交代ラッシュの時期でございます。このような現状でいかにして若い世代の人達に中子の魅力と技術を伝承して中子業界の発展を継続させていくか、今大きな転換期の課題と感じています。そして又、鋳型製造業(日本標準産業分類…中子を含む—2194)として業種認定されていますが、まだ権限が低く、多くの制約があり、こちらにも向上させていかなければ製造業としての魅力、プライドが持てません。世の中が100年に一度の大変革期といわれているこの節目の時代に会長を引継ぎさせて頂く事になりまして責任の重さを痛感している所でございます。任期中は微力ながら誠心誠意努めさせて頂く所存です。それには会員の皆様と共に力を合わせて連帯感を持つての運営が大変重要だと思っておりますので是非とも御協力の程お願い致します。

最後になりましたが、皆様方のますますの御繁栄と御健勝を祈念致しまして御挨拶とさせていただきます。

日本鋳物中子工業会 会長 小澤俊孝

### 地域別生産動向について

(一社)日本鋳造協会は、昨年策定された鋳造産業ビジョン2017にて、地域別の鋳物生産量動向として銑鉄鋳物の県別生産量を公表している。鋳型製造業としても今後の設備計画等に参考資料としたい。

これによれば、2016年度の第1位は愛知県で1,264千トンと他県を大きく上回っている。県内の大手自動車メーカーや工作機械メーカーへの供給が多いことによる。第2位は栃木県215千トンで、やはり県内に大手自動車メーカーの工場があることによる。島根県が第3位の182千トンとなっている。これは関西地域からの鋳物工場の移転などによる中堅鋳物工場が多く、上位を占めているためである。福島県は第4位の171千トンと、やはり東京などから移転した鋳物工場が多数存在する。5位以下では、長野県が前年の第7位から第5位に上がった。静岡は第5位から第6位へ、広島も第6位から第7位へ下がった。10位以下では、富山が第13位から第10位へ、岩手が第16位から第14位へ上がり、20位圏外から愛媛が19位、青森が20位へ上がった。

引用元：鋳造産業ビジョン2017

銑鉄鋳物の県別生産金額・重量(上位20位)

順位 (2015年順位)	都道府県名	2016年		2015年	
		生産量 千トン	生産金額 億円	生産量 千トン	生産金額 億円
1 (1)	愛知	1,264	2,253	1,265	2,281
2 (2)	栃木	215	410	219	432
3 (4)	島根	182	314	172	302
4 (3)	福島	171	318	191	355
5 (7)	長野	110	222	106	227
6 (5)	静岡	107	217	125	248
7 (6)	広島	106	258	123	283
8 (8)	岡山	85	154	86	158
9 (9)	大阪	75	203	82	220
10 (13)	富山	69	139	69	139
11 (10)	兵庫	68	181	71	185
12 (12)	岐阜	66	167	69	176
13 (11)	埼玉	66	152	70	161
14 (16)	岩手	65	145	67	149
15 (15)	新潟	64	193	67	197
16 (14)	茨城	64	127	68	138
17 (17)	三重	54	105	52	104
18 (18)	山形	47	74	44	72
19 (22)	愛媛	35	86	32	83
20 (23)	青森	34	36	33	80

出所：日本鋳造協会調べ

### 第24回定時総会並びに工場見学会の開催

去る1月3日(金)、総会に先立ち工場見学会を静岡県磐田市にて開催。正会員33社54名、賛助会員12社18名の合計72名の方が参加された。

工場見学会では会員でもある株式会社 松下工業を見学。浜松駅に集合し、大型バス2台で総会会場でもある醍醐荘にて会社説明を受けた後に、2班に分かれて本社工場と新島工場に向かった。鋳鉄・アルミ用中子の成型やロボットを利用したバリ取り、レジコーテッドサンド再生焙焼装置などを見学。工場案内は入社3年目前後の若手社員が対応されるなど、人材育成にも力を入れているところを感じた。

総会冒頭の榎垣田会長あいさつでは、当会も設立以来23年が過ぎ、その間に世代も入れ替わり、今後は新しい物の考え方をしていかなければいけない。自動車が電気になった時はどうするのか等の危機を考えて、10年後20年後の仕事を考えていかなければいけない。その為には今回のように色々な所を見学させてもらう事が重要で、自分たちの持つ技術を良くして



定時総会 醍醐荘

売れる機会につなげていかなければいけないと見解を述べられた。役員改選では、(株)大勢 シェル 代表取締役 小澤俊孝氏が新会長に選任された。

来賓として衆議院議員の宮澤博行様、(一社)日本鋳造協会から角田専務理事にもお越し頂き、人手不足問題、働き方改革による残業制限問題、中子鋳型業種の技能実習生制度について各省への対応報告や、鋳造産業ビジョン2017についてお言葉を頂戴した。



工場見学会 新島工場

### 平成30年(一社)日本鋳造協会 新年賀詞交歓会開催される

来賓のあいさつで、経済産業省 製造産業局 素形材産業室長 岡本繁樹氏は、我国の経済状態は全体として安倍政権発足以降、名目GDPは5.6兆円の増加、企業収益は過去最高水準を記録するなど、好循環は着実に確実に実現しつつある。中小企業、小規模事業者は少子高齢化に伴う人材不足、大企業との生産性の格差など構造的課題に直面しており、景気の実感はまだ充分ではないと認識をしている。更に、グローバル競争の激化や、第4次産業革命の到来など大変革に直面しており、生産性革命を政策の柱として位置づけている。その実現に向けたカギのひとつとして「コネクテッドインダストリーズ」というコンセプトを打ち出している。さまざまな業種、企業、人、機械などが



新年賀詞交歓会 東京プリンスホテル

繋がることにより新たな価値創出や生産性向上を計り顧客や社会課題解決を目指す産業の未来像である。技術改新の必要性が最重要課題。コネクテッドインダストリーズに遅れないように参画を。又、中小企業の取引条件改善をねばり強く行っていくと述べられた。

### ◆編集後記◆ 事務局より

- 現在の正会員数77社、賛助会員数16社です。事業計画は大きく変更はないですが、3月に常任理事会を開催予定です。会員訪問は現在計画中です。
- 情報をお寄せ下さい。会員の皆様のご意見・ご希望をお待ちしています。
- 年会費の納入をお願い致します。